



新正会 戸村勝敏 議員

SDGsについて

問 本市がSDGsを推進するにあたっての、他自治体との違いについて伺います。

答 総合政策部長 SDGsの達成に向けては、行政だけではなく、市内企業や事業者、金融機関、その取引業者や消費者など、多くの連携が必要であると考えます。

本市においては、今後、SDGsに取り組みようとしている地域事業者等を奨励し、取り組み者の裾野を広げることが主たる目的とし、市内事業者および市民の認知度や取組状況、地域の特性を考慮して、山武市に合った制度構築を進めていきます。

問 令和3年10月に、(株)千葉銀行および(株)ちばぎん総合研究所と「SDGsの推進に係る連携協定」を締結したと伺いました。その目的やねらいについて伺います。

答 総合政策部長 市内事業者がSDGsに取り組みようとした際、新たな事業計画や資金調達のため、信頼できる相談相手が必要になると思います。(株)千葉銀行は、地域の金融機関として、市内事業者とのネットワークを有しており、さらには、県内でも先進的に地方創生SDGsに取り組みれています。

(株)千葉銀行および、そのシンクタンクである(株)ちばぎん総合研究所は、本市におけるSDGsの推進に必要なノウハウ、ネットワーク、信頼関係をすべて備えているものと考えます。

連携協定の締結により、SDGsの取組を普及・拡大していくことを共通の課題として、一緒に取り組むことで、相乗効果を生み出していきたいと考えています。

市交通システムについて

問 令和3年10月から開始された、基幹バス新路線の実証実験運行にあたり、新たに購入した車両の費用について伺います。

答 総合政策部長 車両は、業務の委託先である、ちばフラワーバス(株)において1台購入しており、その購入費用は約22336万円です。

問 現在の、さんぶの森元気館から蓮沼海浜公園を結ぶ基幹バスの運行ルートは、必ずしも使い勝手が良いも

のとは言えません。地域からは、地域全体をカバーできるような運行ルートを希望する声が多く寄せられています。また、現行の車両は高額であること、山武地域には狭小な道路も多いことから、ワンボックスカーのような安価な車両による運行について、市の考えを伺います。

答 総合政策部長 本市の公共交通において、基幹バスは、地域の主要拠点や交通結節点を結び、乗合タクシーは各地域内の移動を補う役割を担っています。

少子高齢化等の時流に沿った見直しは必要ですが、運行体制の大きな変更は、現在の利用者や既存の交通運行事業者への影響があることから、慎重な検討が必要です。

来年度から、令和6年度以降の新たな交通計画策定のため、その準備を進める予定ですので、この過程において、基幹バスおよび乗合タクシーの運行主体である「山武市地域公共交通活性化協議会」において、目指すべき交通体制について検討を進めていきます。

有害鳥獣駆除について

問 農業者が罾を仕掛けるなど、有害動物対策をすることは可能でしょうか。

答 産業振興部長 農業者個人で

罾を仕掛けることは可能ですが、捕獲用の罾を使用して野生動物を捕獲するためには、基本的には、狩猟免許および県からの捕獲許可が必要となります。

ただし、被害を受けた方が農作物の被害防止のために、①自らの農地内で使用すること、②捕獲した動物の適切な処理ができること等の条件を満たすことができれば、狩猟免許がなくても、県からの捕獲許可を受けることができます。

問 若い農業者の中には、狩猟免許を取得して、自ら有害動物対策に取り組んでいる方もたくさんいますが、市長の見解を伺います。

答 市長 有害動物対策には、捕獲のほかに、侵入防止のための対策や動物の住みにくい環境管理を総合的に行うことが必要であると考えています。

市としては、狩猟免許所有者を中心とした駆除隊による捕獲強化、侵入防止策に対する電気柵助成事業の実施、耕作放棄地対策として農地の利用集積を推進しています。

しかしながら、有害動物への対策は、市だけで実施できるものでも、1人で対策できるようなものでもありません。より良い駆除体制が構築できるよう、今後有害動物駆除対策を進めていきたいと考えています。

